

「環境共生都市『ながの』の実現」を目指して!

「SDGs未来都市ながのReport」では、環境共生都市「ながの」の実現に向かって共に活動を展開する企業や団体にスポットを当て、各主体の様々な取り組みについて、市民の皆様を紹介し、パートナーシップによるまちづくりを推進していきます。

※「SDGs未来都市」とはSDGsの達成に向けた優れた取組を提案する都市として国(内閣府)が選定するもの。

飯綱町 SDGsの取り組み

日本一のりんごのまちを目指す「りんごレザー®プロジェクト」

日本有数のりんごの名産地として知られる飯綱町は、昼夜の寒暖差が大きいので糖度が増し、しっかりと実が締まり、甘味と酸味のバランスのとれた美味しいりんごが育ちます。近年では、生食だけでなく、ジュースやシールドなども町内の施設で製造されています。加工の際に排出される多量のりんごの搾りかす残渣は、家畜の飼料にされるほかは、廃棄処分される状況にありました。こうした中、残渣を活用して「りんごレザー」を作るというプランが(株)SORENAより「いいづな事業チャレンジ」で提案され、プロジェクトがスタートしました。



国内初のりんごレザーが誕生するまで

一般的な合成皮革は、ナイロンやポリエステルでできた生地にポリウレタン樹脂をコーティングして作られますが、「りんごレザー」は石油由来の樹脂に代えて、りんごの搾りかすが樹脂層の原料に用いられています。りんごを使ったレザーは、石油由来の素材を最小限に抑えた植物由来のヴィーガン合成皮革として、海外では「アップルレザー」の名で親しまれていましたが、日本では製造技術が確立されていませんでした。国内初のりんごレザーの実現を目指し、飯綱町・(株)SORENA・皮革製造メーカーの三者で製造開発に取り組み、2022年に「りんごレザー」が誕生しました。

りんごレザーの製造工程

① 町内の加工施設から排出される残渣の集積

- (株)サンクセール ●林檎学校醸造所(北信五岳シールドリー(株))
- 三本松農産物加工施設 から残渣を回収・集積

② 残渣の粉末化



③ 合成皮革へ加工

皮革製造メーカーにて合成皮革へ加工

🍏 300kgの残渣が、トートバック100個分のりんごレザーの原料として生まれ変わります。



りんごレザーを広めていくための取組

製造の安定化

- 粉末製造の事業化(残渣の集積・乾燥・粉砕)
- 微粉末の安定生産・供給体制の整備

りんごレザーの販売

- りんごレザー(生地)の販売
- りんごレザーを使った商品の企画・開発・販売



りんごレザーの認知拡大

- 新たな特産品・町のシンボルとしてのPR活動
- 人生の節目での記念品として、町民に贈呈

りんごレザーで叶える、SDGsの6つのゴール



生産者のやりがいや事業継承問題の下支えに



食品ロスの希望の光に、更に石油資源の枯渇に歯止めを



地方創生、残渣活用にも取り組み誇れる地域発祥であること



動物にもやさしいこと



国産品を使うことで環境配慮に貢献



地域、ベンチャー、その他大手企業やアパレルブランドとの協力連携

お問い合わせ

長野地域連携中枢都市圏 事務局(長野市企画政策部 企画課)
〒380-8512 長野市大字鶴賀緑町1613番地
Tel:026-224-5010 Fax:026-224-5103

長野圏域SDGsポータルサイト
「Nagano Region SDGs ACTION」の
お問い合わせフォームからもお問い合わせいただけます



株式会社 サンクゼール

設立 1982年6月
代表者 代表取締役 久世良太
住所 〒389-1201 上水内郡飯綱町芋川1260
TEL 026-219-3902
FAX 026-219-3906
HP <https://www.stcousair.co.jp/company>

東京から長野に移り住んだ創業者夫妻が始めた小さなベンション。そこで、愛する家族のために地元産のりんごを使い、夫人が手づくりした“りんごジャム”が当社の原点です。

現在は「サンクゼール」「久世福商店」「MeKEL」という3つのブランドを展開し、こだわりの食品を全国にお届けしていますが、事業の根底には、お母さんの愛情と食卓を囲む家族の笑顔が息づいています。

さらに「食」を通して、地域の豊かな自然環境を守り育み、資源とエネルギーを限りなく省いていく積極的な環境保全の取り組みによって、持続可能な社会への責任を果たし、食文化を継承・発展させ、長い年月をかけて熟成するワインのように長野の地に根を張り、世界に必要とされるグローバルな企業を目指しています。

7つの重点項目 2035年までに会社として目指す姿

持続可能な社会の実現を目指して、7つの重点項目(マテリアリティ)を特定し、2035年までに会社として目指す姿を設定。定量的な評価体制のもと、全社一丸となってサステナビリティ経営に取り組んでいます。

① リサイクル

食品工場で製造する商品は、リサイクル可能なガラス瓶を活用し、包材も紙資源・プラスチック資源の利用削減に取り組んでいます。



② カーボンニュートラル

CO₂排出量削減に向けて、食品工場と関係施設ではCO₂フリー電気「Greenでんき」への切り替えを行っています。



③ ウェルビーイング

職場環境や各種制度の改善に努め、多様な働き方等を導入している企業として、長野県より「働きがいききアドバンスカンパニー」に認証されました。



Pickup

女性の活躍推進

社員の8割を女性が占める当社では、早くから仕事と家庭を両立できる環境づくりに取り組んでおり、研修会やヒアリングを定期的に行い、一人ひとりに合わせた働き方を積極的に取り入れています。リモートワークも定着し、県外で本社業務に携わる社員がいるほか、育児休暇も男女を問わず全員が取得し、女性の復帰率も100%となっています。また、女性管理職の比率が19%、役員の比率が17%となっていますが、意欲のある女性社員を後押ししながら、女性管理職割合30%を推進しています。



④ 地域経済の発展

飯綱町産りんごを使ったシードル・蒸留酒を商品化。また、全国各地の地域資源を生かした食品産業振興にも寄与しています。



⑤ フードロス低減

アウトレット店舗では、値引理由を明示し、お手頃価格で販売することで、フードロス低減を推進しています。



⑥ 環境保護

信濃町の「サンクゼールの森」では、森林整備や定点的な調査活動を行い、周辺地域一帯の森林保全活動に取り組んでいます。



Pickup

サンクゼールの森

信濃町に位置する「サンクゼールの森」は、110,000㎡の広大な敷地に、絶滅危惧種を含む約400種の木々や草花、約400種の昆虫などが生息しています。2013年からは、信州大学教育学部森林生態学研究室(井田秀行教授)にご協力いただき、森林保全活動にも取り組んでいます。また、この豊かな森を身近に感じ、自然の大切さを知ることができる場所になるよう、遊歩道の整備を進めています。



⑦ 格差のない社会

格差や不平等のない社会の実現に向けて、タンザニア支援、母子家庭支援、ホームレス支援、社会復帰の支援等に取り組んでいます。



Pickup

タンザニア支援

2009年より寄付付き商品の販売を通じてタンザニアの孤児の養育と自立支援を支えてきましたが、2022年に安定的な支援と寄付額増のために、自社製造商品1点の販売ごとに一定数の金額が寄付される仕組みに変更しました。現在、2024年の開園を目指して「こども園」を建築中です。また、飯綱町から、廃車となった通園バスを寄贈いただくなど、地域を巻き込んだ活動が広がっています。

